

FOCUS '84

1月9日～1月21日

企画 中原佑介

鎌倉画廊 コンテンポラリーアート

中央区銀座7-10-8 平方ビル1F
03-574-8307 (日曜休み)

FOCUS '84

企画 中原佑介

ポンコという珍機械

中原 佑介 YUSUKE NAKAHARA

われわれのあらゆる行為、あらゆる技術は芸術の行為、芸術の技術とすることができる——こういう認識がいよいよ強くなってきているように思われる。別のいい方をするなら、芸術に固有である行為、芸術に専有される技術はもはやないといっても過言ではなくなった。このことは、単に現代美術の形式や素材の多様化としてのみあらわれるのではない。確かにわれわれの眼に映るのは、作品の示す形式——かたちであり、それを形成している素材ではあるけれども、それと同時に行為か技術もまた強く眼に映るようになってきたのである。伝統的に、われわれは作品の形式と内容を語るのを常としてきたが、それと同じ比重をもって行為や技術をも語る必要があるのではあるまいか。

本郷重彦の作品を見るとき、なによりもまず感じられるのは、鉄材を加工し、組合せ、溶接するという技術である。鉄という素材によってつくりだされているかたち、あるいは鉄の材質感は当然のこととして伝わる。しかし、それと同じ、もしくはそれ以上に鉄材の処理加工技術ということを伝えるように思う。むしろ、それがこれらの作品をうみださせたモチーフといってもいい程である。技術は隠れているのではなく、表へでているのである。

本郷の鉄を用いた作品は1974年の水のしみあげポンプを模した「ポンコ1」に始まっている（ポンコという名称はポンプに由来している）。それ以来、シリンダーのある簡単な形態の工作機械のような作品、初期の自動車を思わせるような作品などを経て、蒸気機関車にヒントを得た一連の作品、近作の鉄の円筒

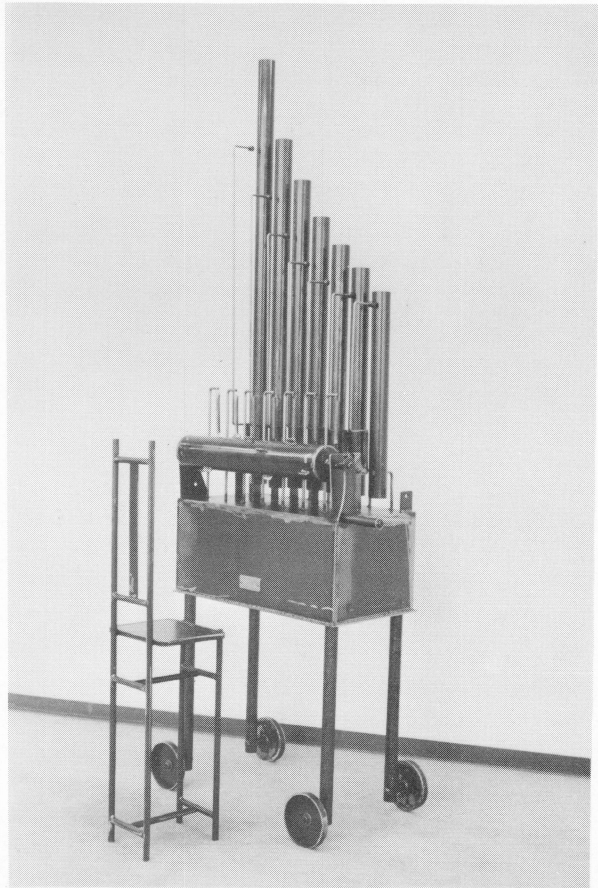
を並べて、それを叩いて音を出す作品へとというように変遷してきた。どの作品も、たとえば科学技術館に過去の機械や乗物として並べると、こういうものがあつたかもしれないと思わせるようなところがある。

本郷によれば、ポンプに関心を寄せた動機のひとつは、それを人間が押したり引上げたりして動かすということにあつたというが、この手で触れるというのは彼の作品に一貫している特徴である。つまりどの作品も可動である。敢えて、ここでも技術ということばを用いるなら、これは観客にもそれに触れて動かすという技術を発揮することを望み、そういう技術を前提として作品をつくっているということにならう。むろん、それらの技術は単純なものではあるが、しかし、一種の機械の運転技術にはちがいないのである。

実際には、それが機械でもなんでもなく、ところから、観客の技術の発揮は遊びになり、作品はユーモラスな一個の物体となる。

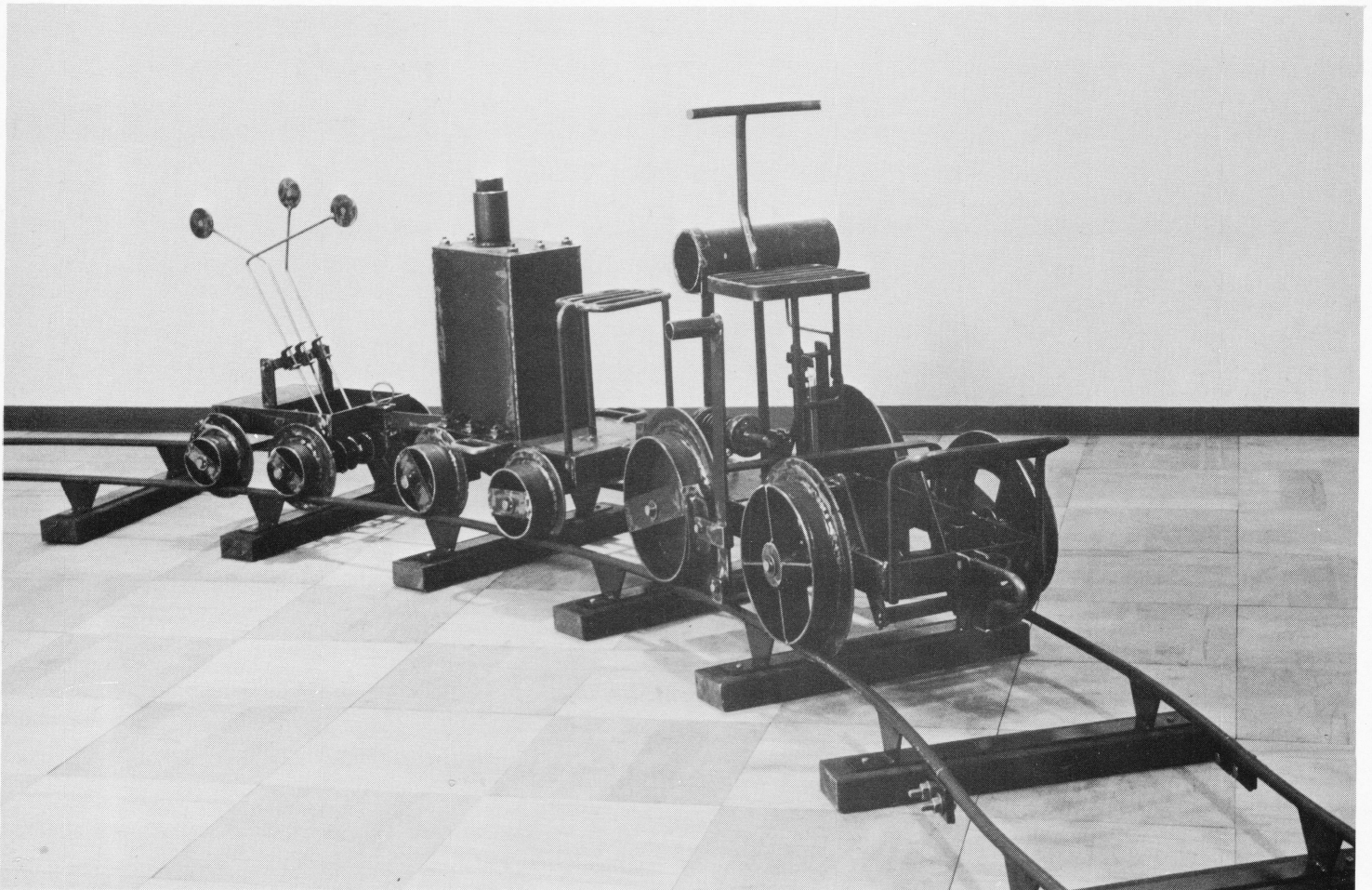
（本郷の作品のもっとも熱心な観客が子供たちであるのは偶然ではあるまい）あるいはユーモラスが一個の芸術的発明物といってもよい。

本郷の作品でもうひとつ指摘しておきたいのは、先程の科学博物館の例にも関連することだが、それがなにか過去にうみだされた形態を想起させるということである。それはしかし過去の美術作品ではない。この過去の形態の想起ということは、技術の芸術化ということと結びついていると思う。鉄材の処理加工技術による古き鉄製品の喚起——われわれがそれを美術の文脈で見るひとつの根拠ではないかと思う。



PONKO 40 iron

PONKO 44 iron



本郷重彦

HONGO, Shigehiko

●略歴

- 1942——滋賀県に生まれる
- 1963——行動美術展(東京都美術館)
第1回京都野外彫刻展(京都府立植物園)
- 1964——グループ「ムの会」展(京都書院画廊)
- 1965——京都教育大学特修美術科彫刻専攻卒業
第2回京都野外彫刻展
- 1966——個展(ギャラリー16, 京都)
次元'66展(京都市美術館)
- 1967——次元'67展
個展(ギャラリー16)
- 1968——京都野外造形展
- 1969——京都野外造形'69
第5回京都野外彫刻展
- 1974——第1回京都彫刻総合展(京都府立文化芸術会館)
第6回京都野外彫刻展
- 1975——長等公園野外彫刻展(大津)
第2回京都彫刻総合展
個展(ギャラリー射手座, 京都)
第7回京都野外彫刻展
京都彫刻新人展(京都文化芸術会館)
- 1976——第3回京都彫刻総合展
京展(京都市美術館)
第12回現代日本美術展(東京都美術館／京都市美術館)
第1回京都彫刻美術展(京都府ギャラリー)
滋賀県造形集団展(大津平和堂ギャラリー)
野外造形展(長浜豊公園)
第8回京都野外彫刻展
- 1977——アートナウ'77(兵庫県立近代美術館)
第13回現代日本美術展(東京都美術館)
第2回京都彫刻美術展
第7回現代日本彫刻展コンクール優秀作品模型展(宇部)
野外造形展(滋賀)
- 1978——第2回京都彫刻選抜展(京都府ギャラリー)
京都彫刻家連盟展(京都府ギャラリー)
第3回京都彫刻美術展
第1回エンバ賞美術展(神戸, 東京, 他)
- 1979——第3回京都彫刻選抜展で買上げ賞受賞
第14回現代日本美術展
第3回京都彫刻家連盟展(京都府立文化芸術会館)
第4回京都彫刻美術展
第8回現代日本彫刻展(宇部)で神戸須磨離宮公園賞受賞
第2回エンバ賞美術展(エンバ中国近代美術館, 芦屋)
- 1980——第4回京都彫刻選抜展
第7回現代彫刻展エスキース展(神戸須磨離宮公園)
第5回京都彫刻美術展
第1回びわこ現代彫刻展マケット優秀作品展(守山市北公民館, 滋賀)
- 1981——第34回京都美術懇話会展(京都・大丸)
第1回びわこ現代彫刻展(第2なぎさ公園, 滋賀)で優秀賞受賞
第15回現代日本美術展
野外彫刻・エスキースとその実際展(ギャラリー山口, 東京)
第6回京都美術展(京都文化芸術会館)
第5回京都彫刻家連盟展
現代美術の錬金術展(ギャラリー成安, 京都)
- 1982——第35回京都美術懇話会展
第6回京都美術選抜展
第6回京都彫刻家連盟展
第7回京都美術展
個展“Hello PONKO”(朝日画廊, 京都)
第5回エンバ賞美術展(エンバ文化ホール, 東京)で優秀賞受賞
- 1983——第36回京都美術懇話会展
第6回日本金属造型作家展(和光ホール, 東京)
第3回ヘンリー・ムア大賞展(美ヶ原高原美術館)佳作賞受賞
第10回現代日本彫刻展コンクール優秀作品模型展(宇部)
第6回エンバ賞美術展(エンバ中国近代美術館)